

# 令和6年度 第3回 岡山市環境総合審議会

令和7年3月4日  
岡山市環境局環境部環境保全課

## < 内容構成 >

1. 社会動向
2. 市民の意識・意向 ー市民アンケート結果ー
3. 岡山市の環境の現状と課題
4. 計画の基本事項
5. 施策体系の骨子案
6. 次年度のスケジュールについて

## 新たな国の方針：「第六次環境基本計画」で示す目標

第五次環境基本計画の「地域循環共生圏」から、  
「循環共生型社会」（「環境・生命文明社会」）の構築による  
「ウェルビーイング／高い生活の質」へ

- **2050年カーボンニュートラルの実現:**
  - ➔温室効果ガスの排出を実質ゼロへ
- **循環経済の推進:**
  - ➔地下資源から地上資源への転換、持続可能な生産と消費を実現するグリーン経済システムの構築
- **自然共生社会の構築:**
  - ➔自然資本を保全・回復し、環境と経済・社会が調和する「循環共生型社会」の構築へ
- **ウェルビーイングの向上:**
  - ➔国民一人ひとりの「生活の質」や「幸福度」の向上

# 01 | 社会動向

## ◆ 前提としてのSDGs (持続可能な社会の構築)

- 2030年のゴール年を見据えて、17のゴール、169のターゲットの達成を目指す。



図: The SDGs wedding cake  
(SDGs ウェディングケーキモデル)

SDGs ウェディングケーキモデル

# 01 | 社会動向



## ◆カーボンニュートラルの推進

- 令和3年（2021年）に開催された「国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）」で、「1.5℃目標」を実現するための努力を追求することが世界的に合意された。

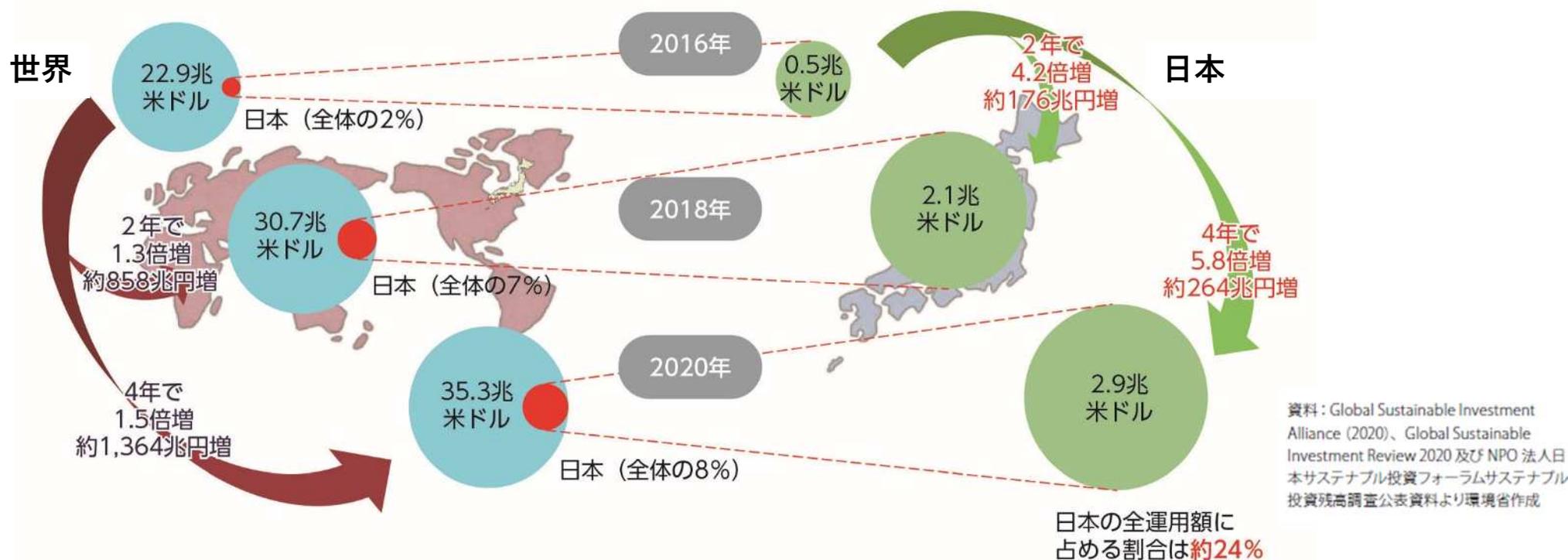
1.5℃上昇の場合		2℃上昇の場合	
14%	少なくとも5年に1回 深刻な熱波を被る世界人口	37%	
100年に一度	北極に海氷のない夏	10年に一度	
26～77cm	2100年までの海面上昇	1.5℃に比べさらに 10cm高い	
150万t	漁獲量の損失	300万t	
70～90%	サンゴ礁の消失	99%以上	

### ◆IPCCが示した危機的状況と気温上昇によるインパクトの違い

# 01 | 社会動向

## ◆ 経済社会活動の変革

- 近年の大量生産・大量消費型の経済社会活動は、様々な環境問題と密接に関係し、持続可能な形で資源を利用する「循環経済（サーキュラーエコノミー）」への移行が求められている。
- 日本を含む世界でE S G（環境：Environment・社会：Social・企業統治：Governance）に配慮している企業を重視・選別して投資を行うE S G投資に対する関心が高まり、企業が自社の事業活動が環境に及ぼす影響や依存度に関して情報開示を求める動きが加速している。
- 自然資本及び生物多様性に関する企業のリスクや機会を適切に評価、開示する枠組みを構築するため国際組織「自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)」が設立された。

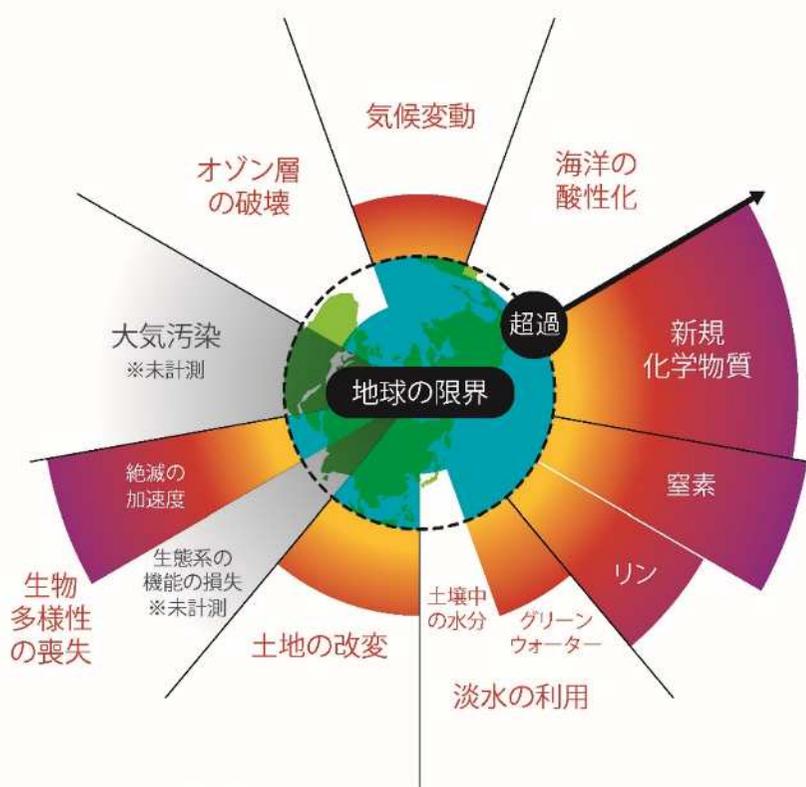


世界と日本でのESG市場の拡大

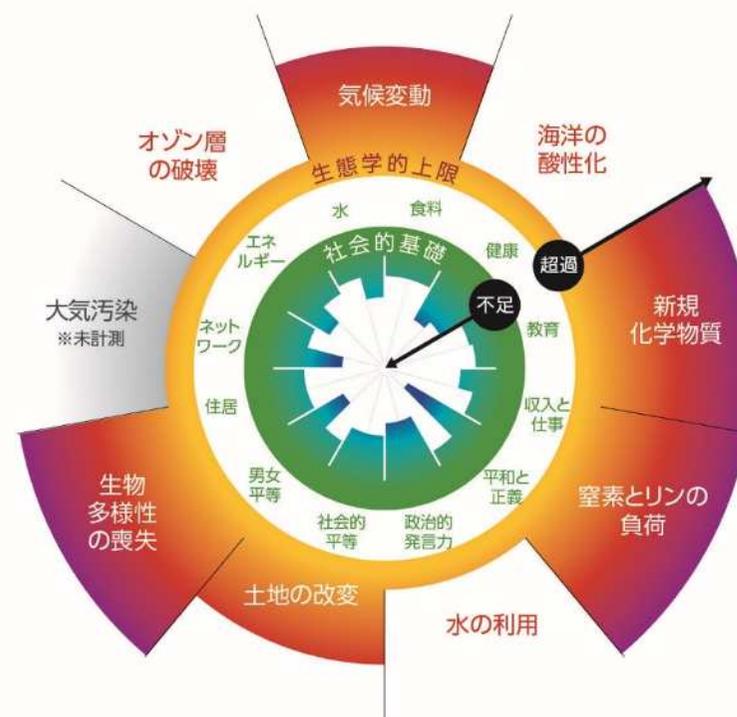
# 01 | 社会動向

## ◆地球の限界（プラネタリー・バウンダリー）

- 「プラネタリー・バウンダリー」とは、人類が地球上で持続的に生存していくには越えてはならない「地球環境の限界」があることを明示した概念。
- 人類の活動が地球の限界を超えず、人々が社会的基礎の不足とならない領域を「ドーナツ内での生活」といい、この領域では、Well-being に焦点を当てた経済が繁栄できる。
- 「ドーナツ内での生活」に収まるためには環境・経済・社会の統合的向上を進める必要がある。



資料：Stockholm Resilience Centre (2022) より環境省作成



注：Kate Raworth [Doughnut Economics] (2017) に基づく。  
資料：ローマクラブ Sandrine Dixson-Declève ほか [Earth for All: A SURVIVAL GUIDE for Humanity] より環境省作成

## プラネタリーバウンダリーとドーナツ内での生活のイメージ

# 01 | 社会動向

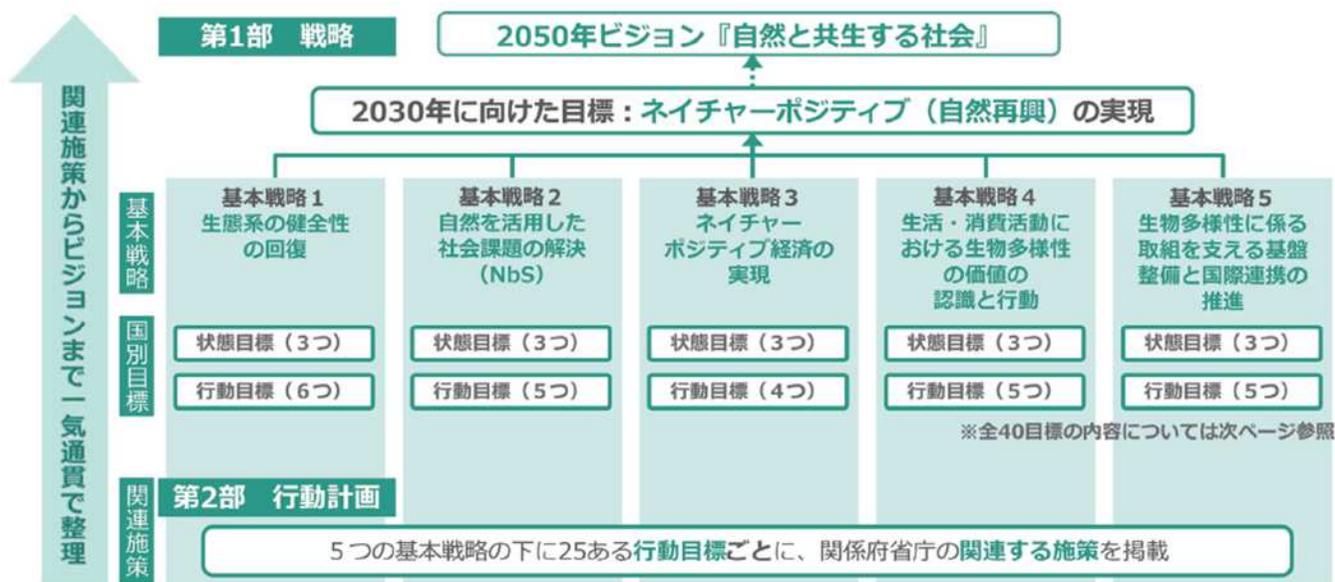
## ◆ネイチャーポジティブの実現

### 《世界の動向》

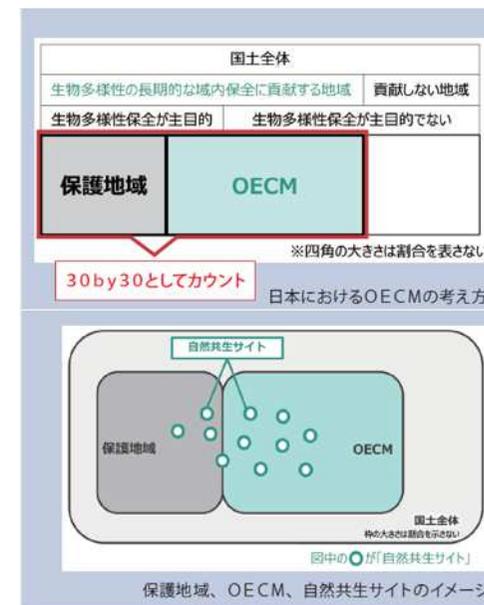
- 新たな世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」で、2030年までに「ネイチャーポジティブ」を実現することを目標とし、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全する「30 by 30」や自然を活用した解決策（NbS\*）などの要素が盛り込まれた。

### 《日本の動向》

- 2030年のネイチャーポジティブの実現を目指し、生態系の健全性の回復のほか、NbS、一人ひとりの行動変容などが、現行の国家戦略の柱となる。
- 30 by 30の達成に向け、本来の目的にかかわらず生物多様性の保全が図られている区域（OECM）を「自然共生サイト」として認定する制度が令和5年（2023年）から開始された。



生物多様性国家戦略2023-2030の概要 (出典:「生物多様性国家戦略2023-2030概要版」(環境省))



「令和5年度第1回OECMの認定・管理の推進 7 に関する検討会資料」(環境省)より作成

## 《調査概要》

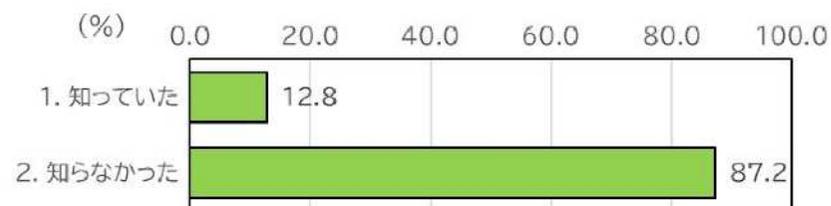
属性	回収率 (%)	配布数	回収数
学生	88.5	592	524
市民	27.9	1,500	419
事業者	47.0	300	141

## 《中高生》

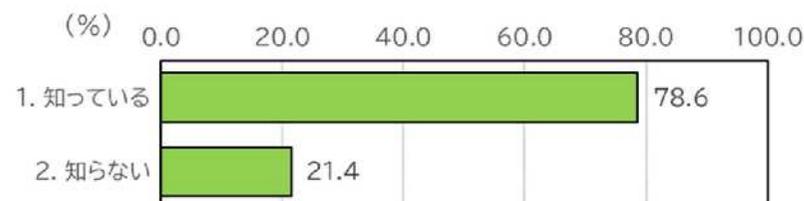
問11. 気候変動（地球温暖化等）の影響についてお聞きします。「岡山市で気候変動の影響を受けていると感じるもの」について、以下の選択肢からあてはまるものを3つまで選んでください。（高校生のみ）(n=93) 3LA



問12. 岡山市では、2050年までに地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指しています。あなたはこのことを知っていましたか？（高校生のみ）(n=94) SA

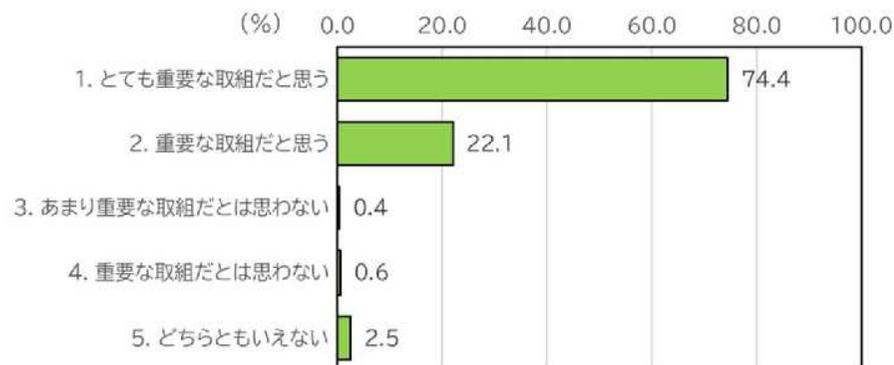


問13. 「地球温暖化」を止めるための取組（地球温暖化対策）を知っていますか？（中学生のみ）(n=425) SA

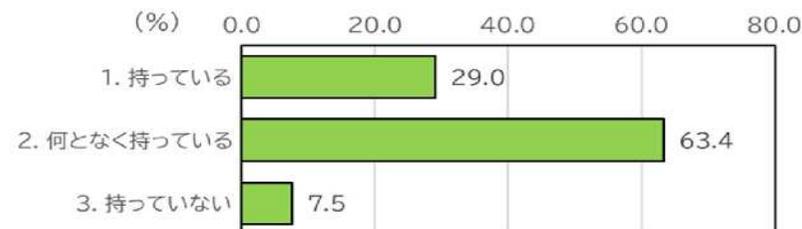


## 《中高生》

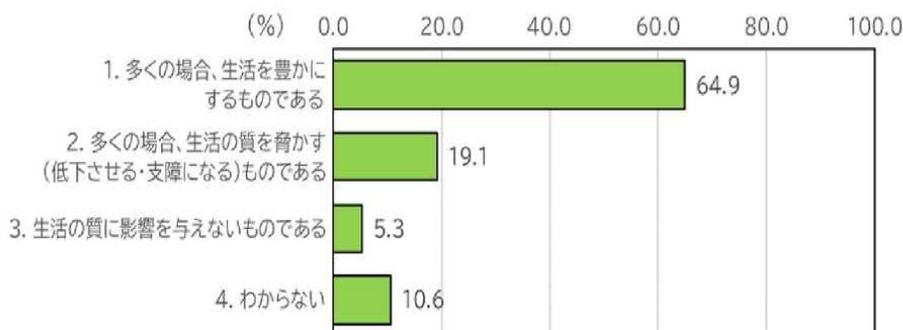
問14. 「地球温暖化対策」についてどう思いますか？(中高生共通) (n=516) SA



問16. 地球温暖化にどのような対策が有効か、具体的なイメージを持っていますか？(高校生のみ) (n=93) SA

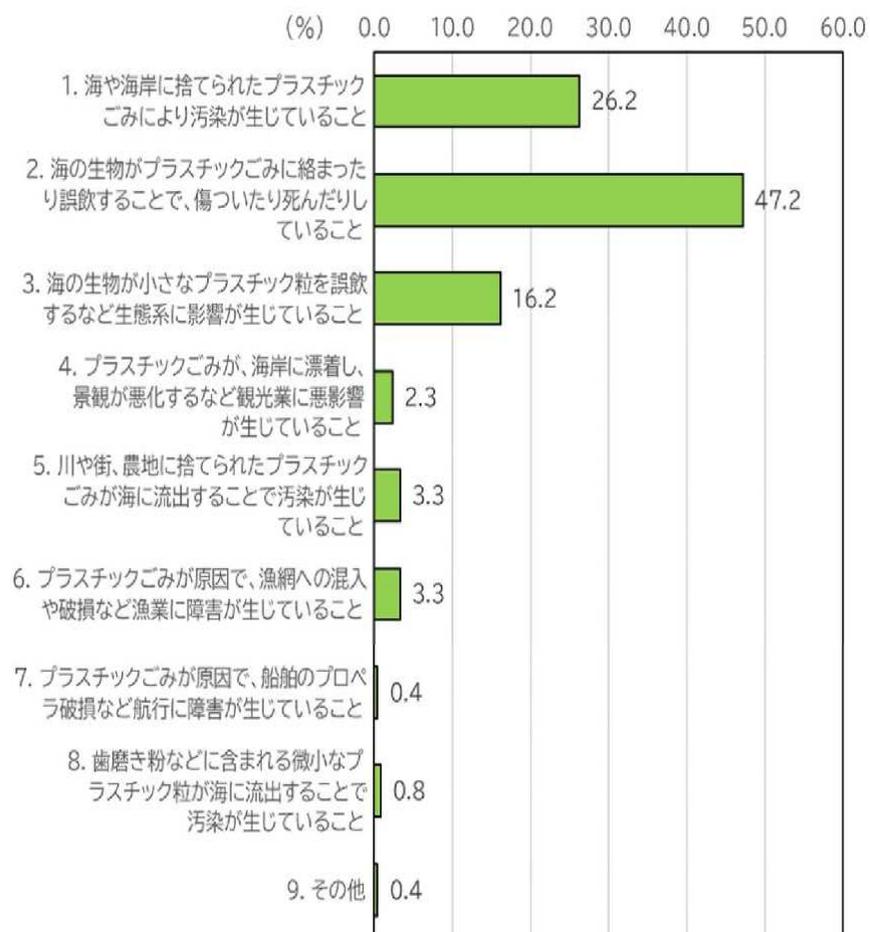


問15. あなたにとって、「地球温暖化対策」とはどのようなものだと感じますか？(高校生のみ) (n=94) SA

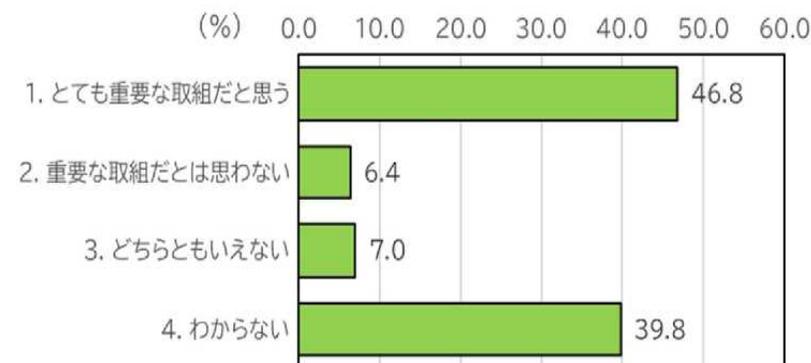


## 《中高生》

問17. 「プラスチックごみ」による海の汚染について、最も問題だと思うものを1つ選んでください。(中高生共通) (n=519) SA



問18. あなたは「サーキュラーエコノミー」の取組についてどう思いますか？(中高生共通) (n=515) SA



## 《中高生》

- 地球温暖化の影響について、「熱中症などの健康リスクの増加」が突出して多い（問11）
- 地球温暖化対策の認知度は高く、重要性の認識も高い（問11～15）が、対策の有効性の具体的なイメージについては「何となく持っている」の回答が6割を超えた（問16）。
- 岡山市が「ゼロカーボンシティ」を目指していることについては8割以上が認知していなかった（問12）。
- 「プラスチックごみによる海の汚染」について、生物への影響を問題視する回答が多かった（問17）。
- サーキュラーエコノミーについては「わからない」が4割近くとなり、十分な理解が得られていなかった（問18）。

◎温暖化の影響への認識は高いが、具体的な対策への理解が不十分

◎環境対策・取組み内容への「普及・啓発」や「理解の醸成」が必要

## 《市民》

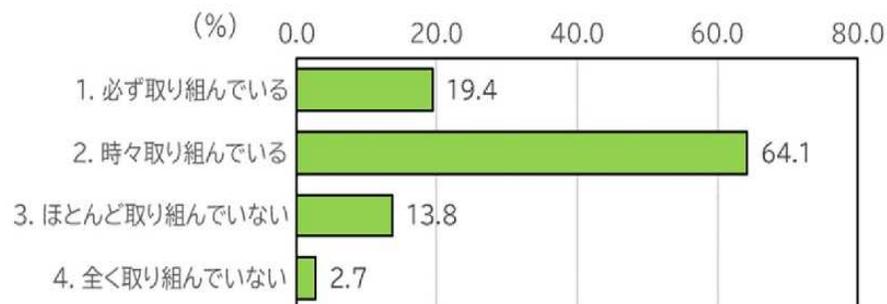
問9.1 あなたの家では、日ごろ、どのような環境保全または環境によい行動をしていますか？

(複数回答可) (n=415) MA

* 1.	買い物はマイバッグを持参する	378件	(91.1%)	* 17.	歯磨きや洗面の時はこまめに水を止める	295件	(71.1%)
2.	お店では包装をできるだけ断る	156件	(37.6%)	18.	風呂の残り湯を洗濯に使用するなど節水に努める	142件	(34.2%)
3.	生ごみをたい肥にしている	38件	(9.2%)	19.	使わないときはコンセントから電源プラグを抜く	113件	(27.2%)
4.	フリーマーケットや リサイクルショップを利用する	55件	(13.3%)	* 20.	エアコンの温度設定を適切にし、省エネに努める	295件	(71.1%)
5.	再生品や環境にやさしい商品を買う	58件	(14.0%)	21.	家電製品を買う時は省エネ性能の高いものを選ぶ	199件	(48.0%)
* 6.	ごみをきちんと分別して出し、 リサイクルにも協力する	345件	(83.1%)	22.	雨水を貯めて庭の水やりを使う	45件	(10.8%)
* 7.	期限切れや食べ残しなどで、 食品をごみにしないよう気を付けている	254件	(61.2%)	* 23.	エアコン使用時に扇風機などを併用する	248件	(59.8%)
* 8.	ごみのポイ捨てをしない	388件	(93.5%)	* 24.	エアコンは必要な時だけつける	264件	(63.6%)
* 9.	行楽地などで自分が出したごみは持ち帰る	312件	(75.2%)	25.	エアコンのフィルターを こまめに掃除する (目安：月1～2回)	122件	(29.4%)
10.	ペットの散歩時のふんは、 ビニール袋などに入れて持ち帰る	69件	(16.6%)	26.	家族といるときはなるべく同じ部屋で過ごす	180件	(43.4%)
* 11.	流しには水切りネットを使い、 汚れのひどい食器はふいてから洗う	298件	(71.8%)	* 27.	人のいない部屋の照明はこまめに消す	343件	(82.7%)
* 12.	廃食油をそのまま流さない	341件	(82.2%)	* 28.	炊飯ジャーの保温機能は長時間使用しない	212件	(51.1%)
13.	徒歩や自転車で行ける所へは車で行かない	167件	(40.2%)	29.	冷蔵庫の中には物を詰め込みすぎない	189件	(45.5%)
14.	待ち合わせや荷物の積み下ろしなどによる 駐停車の際は、アイドリングをしない	162件	(39.0%)	30.	環境に関する学習会や講習会に参加する	13件	(3.1%)
* 15.	テレビやステレオの音量を調整したり、 楽器を演奏する時間に配慮する	208件	(50.1%)	31.	環境に関するイベント (施設見学、自然観察会など)に参加する	12件	(2.9%)
16.	外出や通勤・通学するときは、 なるべくマイカーより公共交通機関を利用する	56件	(13.5%)	32.	清掃活動などの美化活動へ参加する	108件	(26.0%)
				33.	庭などで身近な緑を育てたり 「緑のカーテン」を作る	149件	(35.9%)
					総数	415件	

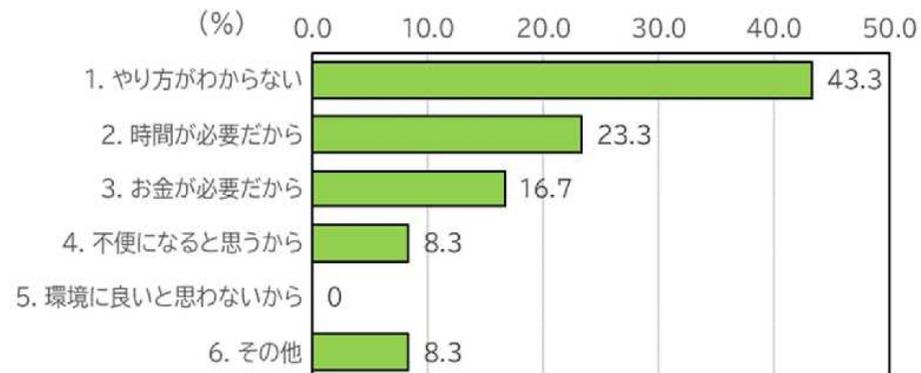
## 《市民》

問9. 2 あなたやあなたの家庭では、日ごろ、環境保全又は環境によい行動にどの程度取り組んでいますか？ (n=407) SA



<問9. 2で「ほとんど取り組んでいない」、「全く取り組んでいない」と回答された方>

問9. 3 取り組まない主な理由は何ですか？ (n=60) SA

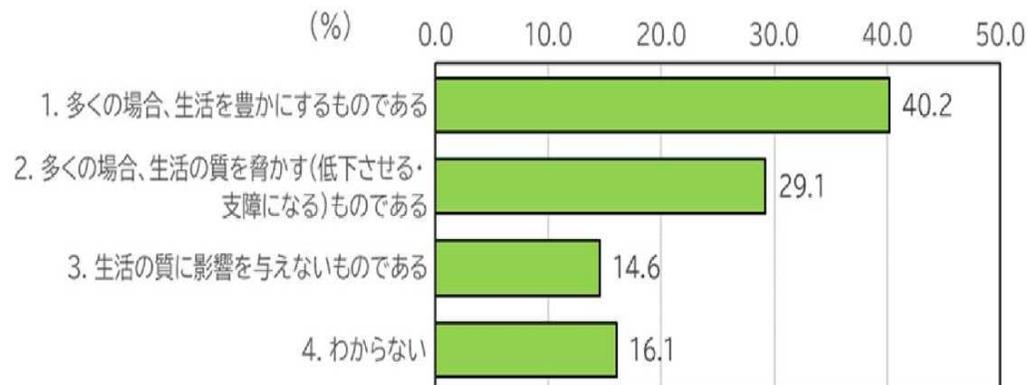


## 《市民》

問10. 1 「地球温暖化対策」についてどう思いますか。(n=409) SA

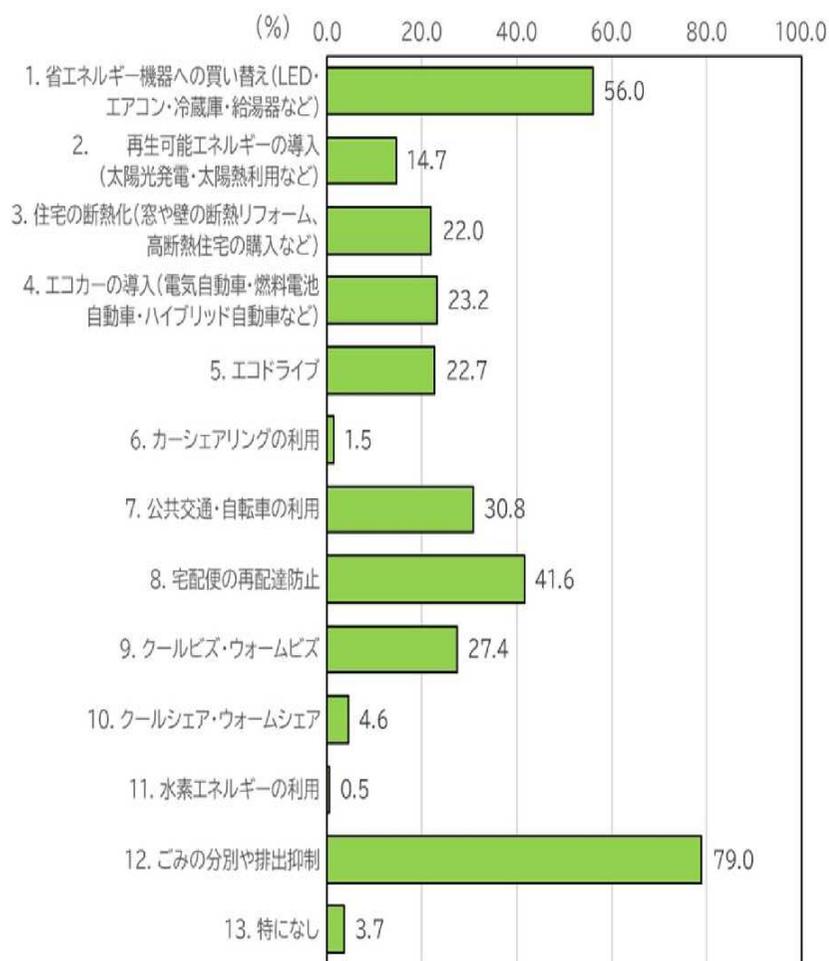


問 10. 2 あなたにとって、「地球温暖化対策」とはどのようなものだと感じますか。(n=398) SA

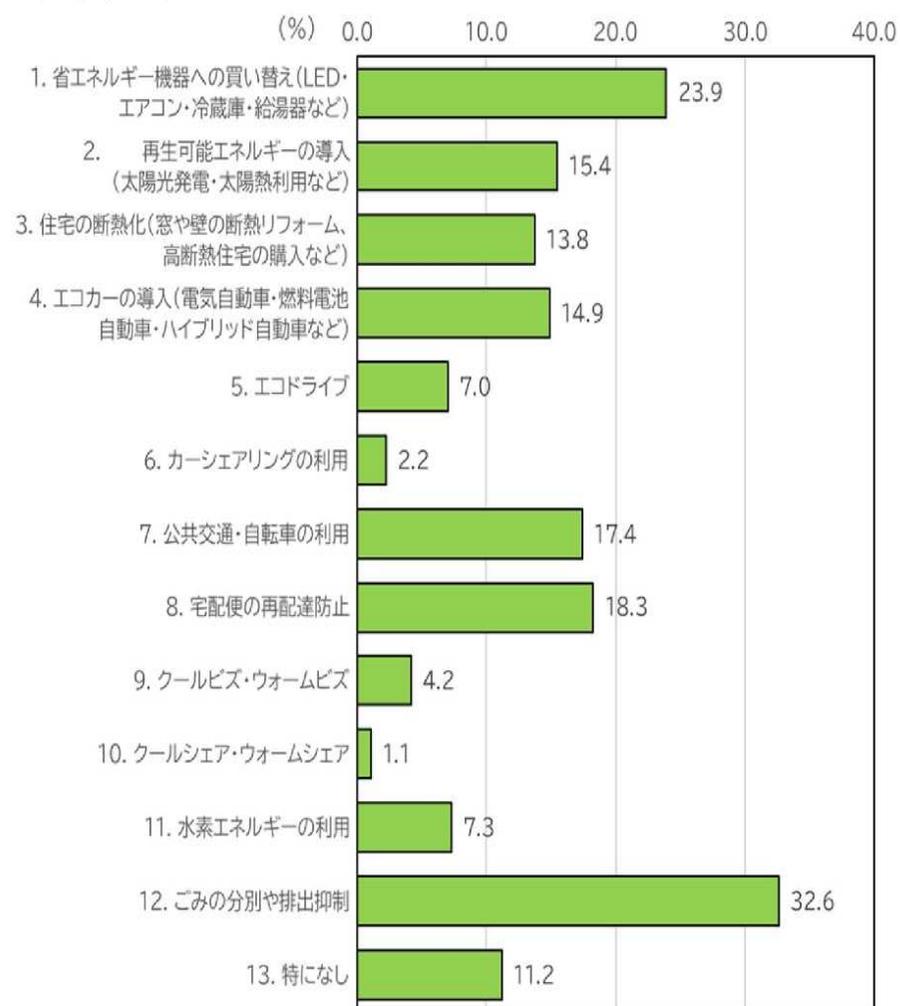


## 《市民》

問 10. 3 あなたが「現在、取り組んでいる対策」は何ですか？（複数回答可）（n=409）MA



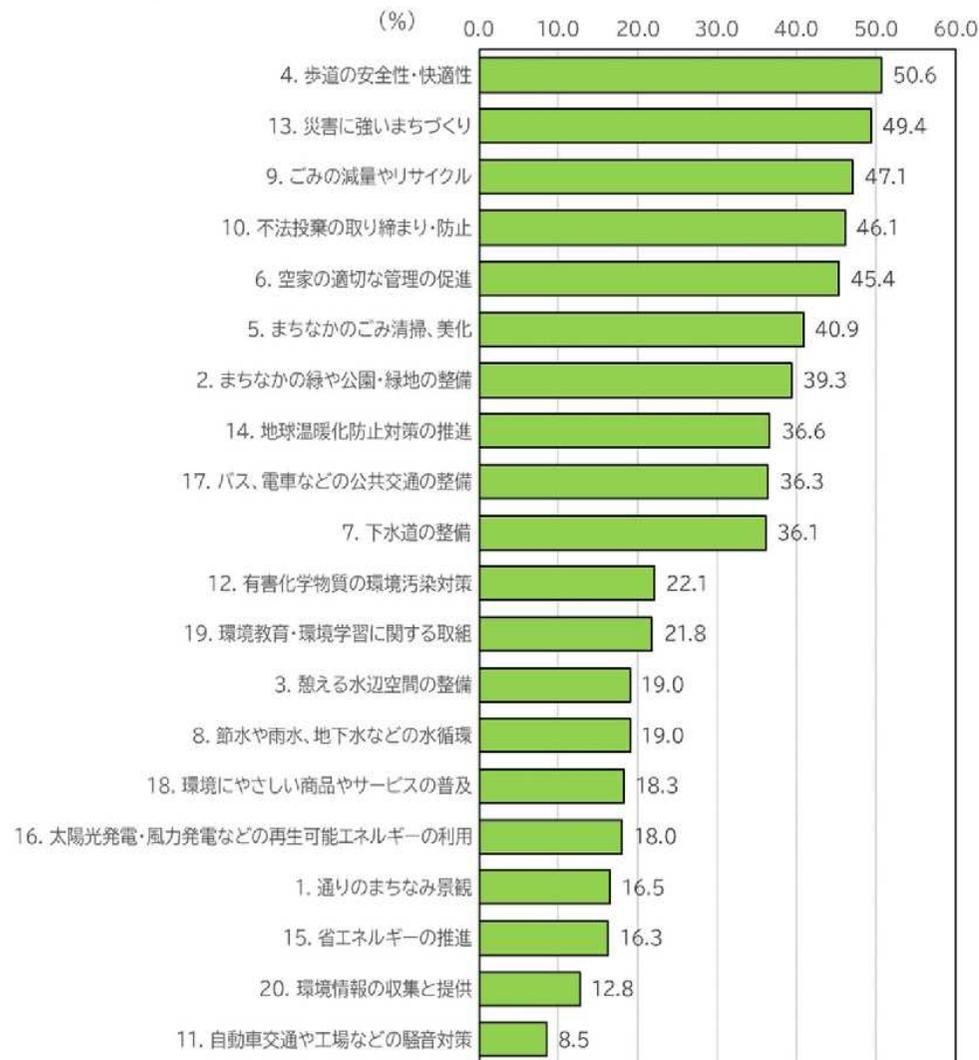
問 10. 4 あなたが「今後、積極的に取り組む必要があると思う対策」は何ですか？（回答は2つまで）（n=356）2LA



## 《市民》

問13. 岡山市の環境保全に関する取組であなたが重要と感じる項目は何ですか？（複数回答可）

(n=399) MA



問14. あなた自身が環境保全への取組に関わろうとするとときに、行政に対してどのようなことを望みますか？（複数回答可）(n=383) MA



## 《市民》

- 家庭で日ごろ「環境保全または環境によい行動」に必ずまたは時々取り組んでいるのは8割を超え（問9.2）、実際には「マイバックの持参」、「ごみの分別、ポイ捨てをしない」「節電、節水」など多岐にわたっていた（問9.1）。
- 地球温暖化対策の重要性の認識は高く（問10.1）、生活を豊かにするという認識の回答が4割ある一方で、生活の質を脅かすとの回答も3割地近くとなった（質問10.2）。
- 地球温暖化対策に関して、現在取り組んでいる対策は、「ごみの分別や排出抑制」や「省エネルギー機器への買い替え」が多く（問10.3）、今後積極的に取り組む必要がある対策についても同様な傾向であった（問10.4）。
- 岡山市の環境保全に関する取組で重要と感じているのは、「歩道の安全性、快適性」、「災害に強いまち」、「ごみの減量、リサイクル」、「緑や公園の整備」等が多かった（問13）。
- 行政に対して環境保全の取組に関わる際に望むことは、「子どもたちへの体験学習や環境教育の推進」が5割を超えた（問14）。

◎日常的・身近な環境対策には取り組んでいる市民が多い

◎まちなかの環境への意識や、子どもへの体験学習・環境教育を望む声が多い

## 《事業者》

問9. 貴事業所では、日ごろ、環境保全または環境によい行動にどの程度取り組んでいますか？

(複数回答可) (n=140) MA

* 1.	「クール・ビズ」「ウォーム・ビズ」運動を実施する	76件	(54.3%)
* 2.	冷暖房の温度設定を適切にし、省エネに努める	109件	(77.9%)
* 3.	不要な照明や空調機器などを消す	121件	(86.4%)
4.	不使用のコンセントを抜く、または主電源を切る	46件	(32.9%)
* 5.	設備を替える時は、省エネタイプの製品を選択する	88件	(62.9%)
6.	エコマーク商品などの環境にやさしい商品を仕入、生産または販売する	42件	(30.0%)
* 7.	裏紙利用などによって、紙の使用量の削減に努める	111件	(79.3%)
* 8.	リサイクルなどにより、廃棄物の減量化に努める	91件	(65.0%)
9.	出荷・販売する製品などの包装簡易化に取り組む	17件	(12.1%)
10.	トイレや清掃などの節水に取り組む	41件	(29.3%)
11.	雨水の貯水タンクなどの設置により、雨水を有効利用する	11件	(7.9%)
12.	法令順守のみならず、環境への負荷を最小限にするために、高度な環境保全設備(汚水処理、ばい煙処理、粉塵処理、防音、脱臭など)の導入に努める	12件	(8.6%)
13.	建物の新築、増築等にあたっては、周辺景観と調和した色彩や高さにするよう配慮する	13件	(9.3%)
14.	環境保全に関するイベントに協力・参加する	11件	(7.9%)
15.	清掃活動などの地域の美化活動へ参加する	44件	(31.4%)
16.	敷地内や屋上などの積極的な緑化に努める	23件	(16.4%)
17.	植樹などの地域の緑化活動へ参加する	12件	(8.6%)
18.	環境報告書(環境活動レポートやCSR報告書なども含む)を作成する	11件	(7.9%)
19.	社員を対象とした環境保全に関する研修を行う	6件	(4.3%)
20.	ISO14001やエコアクション21等の環境マネジメントシステムを導入・推進している	30件	(21.4%)
* 21.	急発進・急加速・急ブレーキをしないなどのエコドライブに努める	93件	(66.4%)
	総数	140件	

## 《事業者》

※本問は設問を提示

問 10 貴事業所では、省エネルギー、再生可能エネルギー関連の機器を利用していますか？以下について、それぞれあてはまる番号を1つ選び、番号を記入してください。

①利用状況

②導入したきっかけ (①で「1. 現在利用している」と答えた方のみ)

③導入しない理由 (①で「6. 導入するつもりはない」と答えた方のみ)

回答 No.	①利用状況
1	現在利用している
2	3年以内に導入する予定である
3	今後導入を考えたい
4	安くなれば導入したい
5	わからない
6	導入するつもりはない

①で「1」と回答の場合

①で「6」と回答の場合

回答 No.	②導入したきっかけ
1	光熱費の負担軽減になったと思った
2	機器の値段が下がってきた
3	CO <sub>2</sub> 削減ができると思った
4	補助制度があった
5	その他

回答 No.	③導入しない理由
1	導入負担が大きい
2	導入に関する事務作業を担当できる人材がない
3	導入による光熱費の負担軽減効果が小さい
4	導入が可能なのか判断がつかない
5	導入できる場所や施設がない(賃貸等)
6	その他

項目	①利用状況	②導入したきっかけ	③導入しない理由
	1～6	1～5	1～6
1. 太陽光発電設備			
2. 太陽熱温水器			
3. 省エネ型冷暖房機(高効率のエアコン、冷温水機、ボイラーなど)			
4. LED照明			
5. 省エネ型オフィス機器※1			
6. 事業活動に使用する省エネタイプの機器(ボイラーなど熱源機器、コンプレッサ、インバータなど)			
7. デマンド監視装置※2			
8. 蓄電池			
9. BFMS(ベムス)※3			
10. 電気自動車(EV)※4			
11. ハイブリッド自動車(HV、PHEV)			
12. 燃料電池自動車(FCV)			

※1: パソコン・プリンタ・複合機等のうち、ここでは「国際エネルギースタープログラム」の製品(右図のステッカーが添付(色は水色))

※2: 電気の基本料金を決定する最大需要電力(デマンド値)を計測し、需要電力があらかじめ設定した目標値に近づくと警告を発したりして、電気の使いすぎを知らせる装置

※3: ビルのエネルギー管理システムの意味で、ビル内に設置した電力や温度など複数のセンサー情報を元に電力使用状況の可視化および空調・照明などの機器の制御による省エネルギー化を行う装置

※4: バッテリーに充電した電気のみで走行する自動車(三菱自動車「i-MiEV」、日産自動車「リーフ」など)



## 《事業者》

問13. 気候変動に対して、貴事業所で取り組んでいる適応策はありますか。あてはまる欄に○を記入してください。

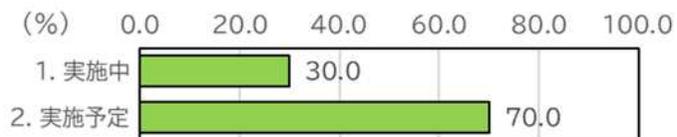
### 1. 対策機器（設備）の導入 (n=45) SA



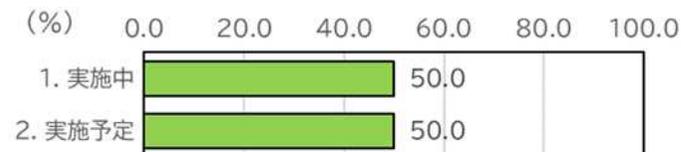
### 4. 研修等 (n=22) SA



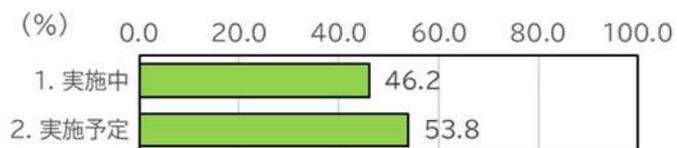
### 2. 関連商品の開発 (n=10) SA



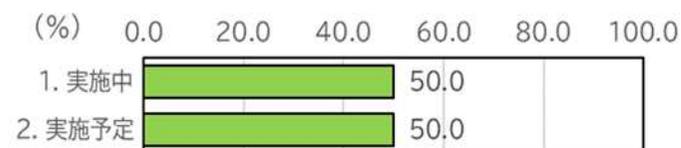
### 5. 影響調査・情報収集 (n=26) SA



### 3. 計画の策定 (BCP 等) (n=26) SA

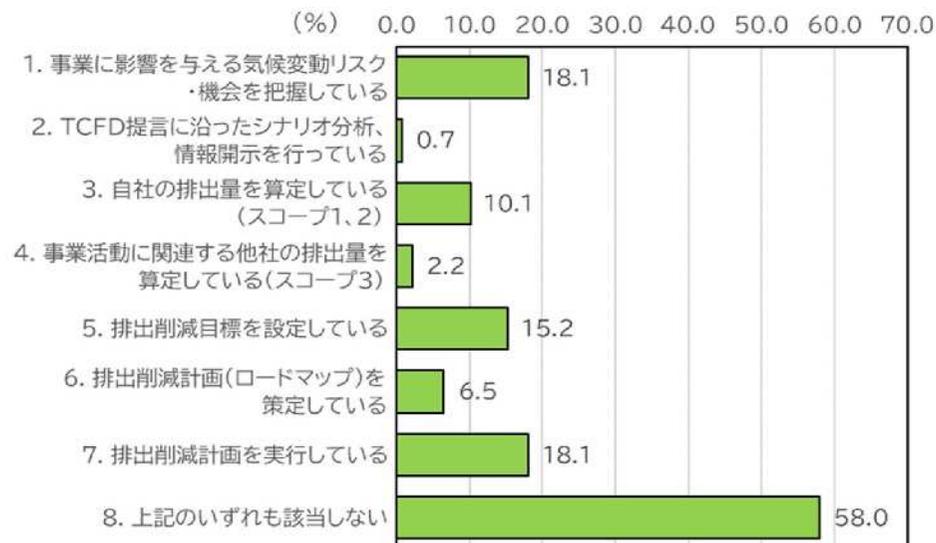


### 6. その他 (n=2) SA

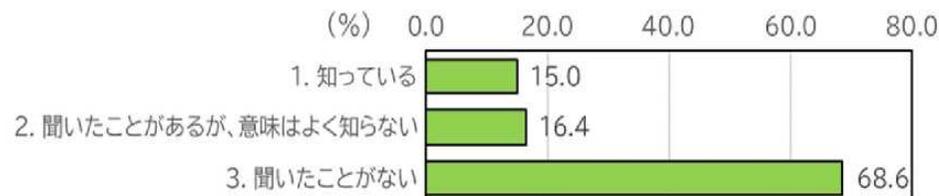


## 《事業者》

問14. 4 貴事業所のカーボンニュートラルに向けた現在の対応状況として、あてはまる番号を選んでください。(複数回答可) (n=138) MA



問15. 1 貴事業所は「サーキュラーエコノミー」について知っていますか？ (n=140) SA



## 《事業者》

問16. 岡山市の環境施策について、重要度を感じる項目は何ですか？（複数回答可）（n=140）MA

1.	通りのまちなみ景観		36件	(25.7%)
*	2. まちなかの緑や公園・緑地の整備		58件	(41.4%)
	3. 憩える水辺空間の整備		33件	(23.6%)
*	4. 歩道の安全性・快適性		72件	(51.4%)
*	5. まちなかのごみ清掃・美化		59件	(42.1%)
*	6. 空き家の適切な管理の促進		83件	(59.3%)
	7. 歴史文化財の保護や伝統文化の継承		32件	(22.9%)
*	8. 河川などの水辺の保全		63件	(45.0%)
	9. 砂浜や自然海岸の保全		29件	(20.7%)
	10. 森林などの自然の保全		42件	(30.0%)
*	11. 農地の保全		38件	(27.1%)
*	12. 昆虫・鳥などの生き物の多さ		22件	(15.7%)
	13. 外来生物対策		54件	(38.6%)
	14. 鳥獣被害対策		38件	(27.1%)
	15. 自然に親しめるレクリエーション施設などの整備		23件	(16.4%)
	16. 下水道の整備		46件	(32.9%)
	17. 節水や雨水、地下水などの水循環		30件	(21.4%)
*	18. ごみの減量やりサイクル		57件	(40.7%)
*	19. 不法投棄の取り締まり・防止		62件	(44.3%)
	20. 自動車交通や工場などの騒音対策		12件	(8.6%)
	21. 有害化学物質の環境汚染対策		31件	(22.1%)
*	22. 災害に強いまちづくり		75件	(53.6%)
	23. 地球温暖化防止対策の推進		47件	(33.6%)
	24. 省エネルギーの推進		36件	(25.7%)
	25. 太陽光発電・風力発電などの再生可能エネルギーの利用		27件	(19.3%)
	26. バス、電車などの公共交通の整備		46件	(32.9%)
	27. 環境にやさしい商品やサービスの普及		19件	(13.6%)
	28. 環境教育・環境学習に関する取組		27件	(19.3%)
	29. 環境情報の収集と提供		22件	(15.7%)
		総数	140件	

## 《事業者》

- 日ごろ「環境保全または環境によい行動」として、節電、省エネ、節水、エコドライブの取組が多く、一方、緑化活動などへの取組は少なかった（問9）。
- 省エネルギー、再生可能エネルギー関連の機器の利用が多かったのは、多い順にLED照明（79%）、ハイブリッド自動車（48%）、省エネ型冷暖房機（43%）、太陽光発電設備（25%）、省エネ型オフィス機器（23%）となり、事業活動に使用する省エネタイプの機器、デマンド監視装置、蓄電池、太陽熱温水器の設置、蓄電池、BEMS、燃料電池自動車の利用は多くても18%以下と少なかった。
  - ➡いずれも導入のきっかけは、「光熱費の負担軽減」を挙げており、自動車関連については「CO2削減」を挙げていた。
  - ➡一方、導入しない理由はいずれも「導入負担が大きい」が挙げられた。

ただし、省エネ型オフィス機器、事業活動に使用する省エネ型オフィス機器、事業活動に使用する省エネタイプの機器、デマンド監視装置、蓄電池、BEMS、燃料電池自動車については、利用状況がわからないという回答も比較的多かった。（問10）

## 《事業者》

- 気候変動への取組については、適応策を実施しているのは、30%～69%で、何らかの適応策には取り組んでいることが明らかになった（問13）。
- カーボンニュートラルについて、対応していない事業所が約6割を占めた（問14.4）。
- サーキュラーエコノミーについては「聞いたことがない」が7割近くとなり、十分な理解が得られていなかった（問15.1）。
- 岡山市の環境政策で重要と感じているのは、「空き家対策」、「災害に強いまち」、「歩道の安全性、快適性」、「水辺の安全」、「ごみの清掃、美化」、「緑や公園の整備」等が多かった、一方、「環境教育に関する取組」や「再生可能エネルギーの利用」についての重要性の認識は低かった（問16）

- ◎節電・省エネへの取組は浸透しているが、一方で導入に負担感もあり
- ◎再生可能エネルギーの重要性への理解・浸透は不十分
- ◎緑化活動への取組は少なく、事業所と自然環境との共生に係る提案が必要
- ◎カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミー等、新しい環境用語・取組への理解や関心が不十分であることは課題



《環境目標1》 市民協働による環境づくりと快適な都市環境が実現しているまち

□：着目

基本目標	指標名	単位	[実績値] R5(2023)	[目標値] R7(2025)	評価	次期計画の方針
水のあとをのこす緑のまちをつくる	公園・緑地の整備や緑化推進の満足度	%	-	50	B	継続
	ごみのポイ捨て数 (調査地点6か所の平均値)	個	93	90	B	継続
よき歴史・文化にふれる美しいまちにし	屋外広告物モデル地区指定数	地区	12	8	A	継続
	景観形成重点地区指定数	地区	12	8	A	継続
	地区計画決定地区数	地区	21	32	C	終了
	街並み修景助成事業の実施状況	件	32	33	B	継続
	文化財の親しみ度	人	93,131	82,000	A	終了
	史跡指定地の増加と整備事業の推進	か所	5	6	A	継続
	文化振興・歴史保存活用の満足度	%	37.0	40	A	終了
	文化活動を行う市民の割合	%	57.5	65	B	継続

基本目標	指標名	単位	[実績値] R5(2023)	[目標値] R7(2025)	評価	次期計画の方針	
環境教育・環境学習に取り組みよう	地域環境教室の年間参加者数	人	9,950	16,000	B	継続	
	めだかの学校環境講座の年間参加者数	人	257	2,500	C	継続	
	わくわく体験促進事業・親子環境学習サマースクールによる自然体験や環境への理解の深まり度	上段：教育委員会	%	100.0	85	A	継続
		下段：地域子育て支援課	%	100.0	85	A	継続
	自然体験リーダー養成講座修了者の自然体験リーダーズクラブ登録者数	人	208	205	B	継続	
	公民館で開催される環境学習講座の数	講座	130	120 (140)	A	継続	
	エコ公民館 取組数	館	37	37	S	終了	
	おかやまエコミュージアム（地域まるごと博物館）への参加人数	人	208	300	C	終了	
	全小学校区におけるESDの実施率	%	100.0	100	S	継続	
	ESDプロジェクトの参加組織数	組織	381	370 (300)	S	継続	
協働して環境保全に取り組みよう	市役所の事務事業から発生する温室効果ガス排出量をはじめとする環境負荷の低減	%	岡山市環境保全行動計画に定める各種目標値を達成する				
	1) コピー用紙使用量		H25年度比 19.8% 削減	R2年度目標 53,236千枚	A	終了	
	2) 電気使用量		R2年度目標 109,875 kWh	C	継続		
	3) ガソリン使用量		R2年度目標 529k	A	継続		
	愛の泉善行賞の表彰数	件	11	25 (20)	C	継続	
	環境パートナーシップ事業に参加する市民の割合	%	7.1	10	B	継続	
	環境パートナーシップ事業に参加する事業所の数	事業所	827	1,500	C	継続	
用品特別会計におけるグリーン購入達成率	%	97.7	98	B			

《環境目標2》 豊かな自然環境の保全と共生が実現しているまち

基本目標	指標名	単位	[実績値] R5(2023)	[目標値] R7(2025)	評価	次期計画の方針
守り育てよう豊かな自然環境を	農業用水路の浚渫・藻刈を実施する地元組織数	組織	155	158	A	継続
	リフレッシュ瀬戸内（海岸清掃）の参加者数	人	107	230	B	継続
	森林や原野の割合	%	44.2	44%台 (現状値を維持)	A	継続
	エコファーマーの認定者数	戸	42	300	C	継続
切に多様な生きものが大	アユモドキの実態調査対象地域の拡大	生息地	生息地	他地域への拡大 (賞田地域周辺まで拡大)	A	継続
	ホタルの生息地	か所	17	18	B	継続
	倉安川における自然石護岸の整備事業進捗率	%	99.0	100	B	継続
	身近な生きものの里認定地区数	地区	27	25	A	継続
うあい親しむ自然とふれ	地域環境教室の年間参加者数(再掲)	地区	9,950	16,000	B	継続
	自然体験・文化伝承に関する公民館講座数	講座	86	50	S	継続

農水省「みどり認定」の活用に移行予定

《環境目標3》 賢い選択による低炭素化と地球にやさしい活動が実現しているまち

基本目標	指標名	単位	[実績値] R5(2023)	[目標値] R7(2025)	評価	次期計画の方針
組も う 化 に 取 業 の	市内の太陽光発電システム設置容量	千kW	359	413	A	継続
	市民共同発電所の箇所数	件	8	15	C	終了
	地球温暖化防止行動の実践度 (市民意識調査)	点	56.5	60%	B	継続
	ライトダウンキャンペーン期間中に 市域で削減するCO2量	kg-CO2	21,239	2,500	S	継続
よ う り を 進 め	市有施設への太陽光発電システム 設置件数(累計)	件	130	130	A	継続
	JR岡山駅の1日あたりの乗降客数	万人	13.1	15.2	C	新規
	公用車への電気自動車の導入	台	39	200	C	継続
	公共の電気自動車充電設備の設置基数	基	14	20	C	継続

## 《環境目標4》安全な生活環境と循環型社会が実現しているまち

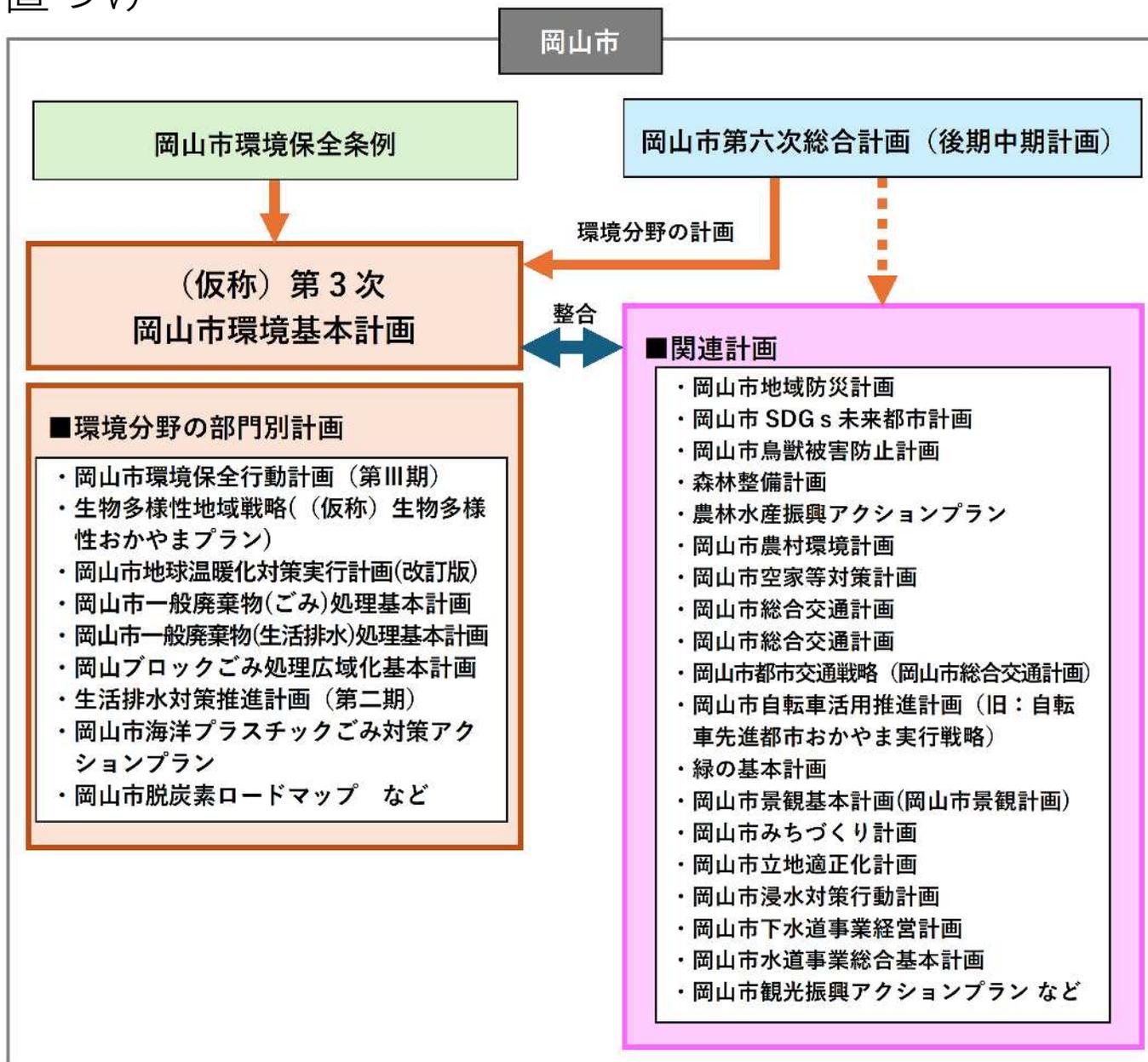
基本目標	指標名	単位	[実績値] R5(2023)	[目標値] R7(2025)	評価	次期計画の方針
全き なれ 水い 循 な 環 水 に 環 境 使 用 、 健	児島湖の水質 (COD)	mg/ℓ	8.6	5.0	C	継続
	海域の水質 (COD)	達成率	1/3	3/3	C	継続
	汚水処理人口普及率	%	86.1	90	B	継続
	浄化用水導入量	千t/ℓ	300	200	A	継続
	水路内緑化施設の整備箇所	か所	3	5	B	終了
	事業場排水等の監視	事業所	330	400	B	継続
ご み の 減 量 化 と 資 源 化 に 取 り 組 も う	市民1人1日あたりのごみ排出量	g/人日	789 (R4年度)	754	A	継続
	家庭系ごみの排出原単位	g/人日	481 (R4年度)	450	A	継続
	事業系ごみの排出原単位	g/人日	309 (R4年度)	304	A	継続
	資源化率	%	26.88	31.1	B	継続
	埋立処分率	%	2.66	3.30	A	継続
	建設廃棄物の再利用率	%	98.4	96.00	B	継続
	建設発生土の利用率	%	99.0	85.00	S	継続
	東部・西部リサイクルプラザ来場者数	人	39,780	60,000	C	継続
	ごみゼロ週間に公民館で開催する関連講座への参加者数	人	2,668	4,500	B	継続

基本目標	指標名	単位	[実績値] R5(2023)	[目標値] R7(2025)	評価	次期計画の方針
安全 で 快 適 な 生 活 環 境 を 守 ろ う	有害大気汚染物質の環境基準	%	100.0	100	A	継続
	ダイオキシン類の環境基準	%	100.0	100	A	継続
	騒音の環境基準	%	75.0	100	B	継続
	道路騒音・振動 (上段：道路騒音 (R1まで)、下段：道路振動 (R1まで))	%	100.0	100.0	B	継続
		%				
	大気汚染防止法の規制工場・事業場に対する立入検査実施率	%	10.9	50	C	継続
	アスベスト飛散防止対策	%	100.0	100	A	継続
	化学物質に対するリスクコミュニケーションに取り組む工場・事業場	事業所	3	6	C	終了
	ダイオキシン類対策特別措置法の規制工場・事業場に対する立入検査実施率	%	32.0	50	C	終了
	有害物質使用特定施設への立入調査達成率	%	111.0	100	A	継続
土壌汚染対策法に基づく工事工程ごとの立入調査数の割合	%	133.0	100	A	継続	
浸水対策実施済み割合	%	47.0	(100)	A	継続	

《リーディングプロジェクト》

リーディングプロジェクト	指標名	単位	[実績値] R5(2023)	[目標値] R7(2025)	評価	次期 計画 の方針
リーディング 1	まちなかのホテルの生息地	か所	5	6か所	B	継続
リーディング 2	岡山ESD プロジェクト参加団体による ワークショップの開催件数	件	31	36件	B	継続
リーディング 3	身近な生きものの里認定地区数	地区	27	25地区	S	継続

## ➤ 計画の位置づけ



## ➤ 計画の対象

### 【現行計画】

対象分野		環境項目
環境活動	協働	環境教育、環境学習、ESD推進、環境保全活動 等
	自然環境	植物、動物、地形、水、生態系、生物多様性 等
	快適環境	景観、緑、水辺、音、光、かおり、歴史、文化 等
	生活環境	大気質、水質、騒音・振動、悪臭、地盤沈下、土壌汚染、有害化学物質 等
低炭素		地球温暖化（緩和策・適応策）、オゾン層破壊、エネルギー 等
循環型社会		廃棄物、資源、水循環 等



### 【次期計画案】

対象分野	環境項目
1. 地球環境	地球温暖化、再生可能エネルギー、省エネルギー、ゼロカーボン、気候変動適応 等
2. 循環型社会	廃棄物、資源、水循環 等
3. 自然環境	植物、動物、地形、水、生態系、生物多様性、自然とのふれあい 等
4. 都市・生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公害関係（大気質、水質、騒音・振動、悪臭、地盤沈下、土壌汚染、有害化学物質 等）</li> <li>・快適環境（景観、緑、水辺、音、光、かおり、歴史、文化 等）</li> </ul>
5. 環境教育・協働	環境教育、環境学習、ESD推進、環境保全活動 等

- 名称：(仮称) 第3次岡山市環境基本計画
- 対象区域：岡山市全域
- 計画期間：令和8年度（2026年度）～令和17年度（2035年度）の10年
- 計画の対象：岡山市環境保全条例\* 第7条に規定する「施策の策定等に係る指針」を基本として設定

\*同内容は4月1日から「岡山市環境基本条例」に移行する。



■ (仮称) 第3次岡山市環境基本計画策定に係るスケジュール

	2023年度 (令和5年度)						2024年度 (令和6年度)									2025年度 (令和7年度)																																																																																																														
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																																																															
策定の流れ (仮称) 第3次岡山市環境基本計画			● 諮問					骨子作成														原案作成			修正案作成			最終案作成			答申案作成			● 答申																																																																																												
意見聴取 市民・事業者								← 市民アンケート →			← 事業者アンケート →											← 施策体系の整理 ・重点プロジェクトの設定 ・環境指標の設定 →														← ハブコメ →																																																																																										
庁外会議 環境総合審議会			● 審議会 ○ 諮問 ・ 策定方針について																	● 審議会														● 審議会											● 審議会											● 審議会																																																																						
庁内会議等 幹事会、各課照会、ヒアリング等																																				● 幹事会																		● 幹事会																		● 幹事会																		● 幹事会																																				
議会 委員会			● 委員会																																		● 委員会																																				● 委員会																		● 委員会																		● 委員会																	